

～古代ロマン～

震災を経て姿を現した数々の出土品が古の暮らしを語る



土師器(はじき)

古墳時代以降に作られた素焼きの土器の総称。大辻遺跡では、奈良・平安時代のものが出土しています。



須恵器(すえき)

窯で焼かれ、青灰色をした土器。奈良・平安時代のものや、鎌倉時代に東播磨(現神戸市等)で焼かれたものも出土しました。



鉄器(てつき)

鉄を材料にした道具。奈良・平安時代の鉄鍬(てつぞく)や鉄鎌(てつがま)などが出土しています。



弥生土器

(やよいどき)

主に後期(約2,000年前)の土器が出土し、壺や高坏(皿に長い台がついたもの)の完形品も発見されました。

古の暮らしを飾った**役者**たち



1 平安時代の祭祀土坑



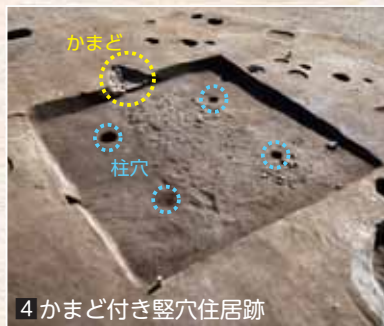
2 東播系須恵器の入ったピット



3 縄文時代の埋設土器



5 縄文時代の集石遺構



4 かまど付き竪穴住居跡



6 弥生時代の祭祀土坑



縄文土器

(じょうもんどき)

大辻遺跡では、早期(約8,000年前)や後期～晩期(約4,000～3,000年前)の土器が出土しています。



石器(せつき)

石を材料にした道具。

縄文時代の石鍬(せきぞく)や石斧(せきふ)、弥生時代の石包丁などが出土しています。

